

潮 騷

第 59 号
令和 8 年
1 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四・五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

新年あけましておめでとうございます

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



会長
池田潤一郎



皆さま方におかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

当会は、先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難や労働災害で殉職された船員の慰霊および顕彰、そしてそのご遺族の援護に取り組んでいます。旧年中は、賛助会員、協賛会員ならびに関係者の皆さまには、このような事業の運営にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の活動を振り返りますと、5月14日には第52回の戦没・殉職船員追悼式を、また、8月15日の終戦記念日には戦没・殉職船員を慰霊・追悼するための献花式を、それぞれ「戦没船員の碑」において開催致しました。

また、第51回「戦時徴用船遭難の記録画展」を9月5日から15日まで静岡市清水文化会館マリナートにおいて開催しました。同期間中は、連日の猛暑に加え、台風の影響も受けたものの、ご遺族の方々をはじめ、近隣だけではなく遠方から来られた方々も含め、約400名の方々が来場されました。展示された絵画が迫

力を持って伝える戦時徴用船と乗組員が受けた被害の甚大さとその悲惨さは、多くの来場者の方々に印象付けたようで、戦争は二度と起こしてはならないという強いメッセージをいただきました。

さて、6万余名の船員の尊い命が犠牲となった先の大戦から昨年で80年が経過しました。ご遺族は、兄弟や子供から孫へと徐々に世代が移行しており、戦争の悲惨さと平和の尊さを先々の世代に語り継ぐ方々の減少によって、戦争の重要な記憶が風化していくことが懸念されます。国外に目を転じれば、戦争や紛争が絶えず起こっていますし、最近では専制主義的な大国が目的達成のために軍事力を行使する懸念も払拭できず、戦争のない平和の尊さを訴え続けていく必要があります。こうした中で、当会といたしましては、今日に至る我が国の平和と繁栄が、戦没・殉職船員をはじめとする多数の人々の尊い犠牲の上に築き上げられたものであることを決して忘れず、先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊と顕彰、ならびにご遺族の援護に一層の努力を重ねていくことで、戦争の悲惨さ、平和の尊さを引き続き伝えて参ります。

皆さま方におかれましては、本年も旧年に変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

お知らせ

第53回

戦没・殉職船員追悼式

日時 令和8年5月14日(木)

午前11時 開式(予定)

場所 観音崎公園(横須賀市)

「戦没船員の碑」にて

交通

①京急浦賀駅、京急馬堀海岸駅

JR横須賀駅から

観音崎行き京浜急行バス乗車。

「観音崎」バス停下車

②午前9時から11時10分まで「観音崎」バス停から式典会場まで無料

マイク口バスで送迎します。

*乗用車による式場乗入れはできません。

※式典には、全国の遺族、関係者の参列をいただいています。ご案内状の発送は4月上旬を予定しておりますが、ご案内を差し上げない方々も自由に参列できます。

※式典会場は屋外となります。近年の温暖化の影響で晴天の場合は気温が高くなることが予想されます。暑さ対策として、帽子・日傘・水等をご用意ください。

※式典は雨天でも行いますので、雨具の用意をお願いします。



静岡市清水文化会館 マリナート

「知られざる民間船舶の悲劇」 戦時徴用船遭難の記録画展 静岡で開催

第51回「戦時徴用船遭難の記録画展」を、9月5日から9月15日まで、静岡市清水区の静岡市清水文化会館マリナートで開催した。

連日の厳しい暑さにもかかわらず、ご遺族の方々をはじめ近隣の市民や遠方からも、400人の方々が来場し、壮絶悲惨な船員と戦没船の記録画を熱心に見入っていた。

戦時徴用船遭難の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族をはじめ多くの皆様に戦時徴用船乗組員の凄絶な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職

船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦では、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資、資源などの輸入物資を運ぶための大量輸送船隊と海上輸送路の確保が絶対条件で、「国家総動員法」に基づく、「戦時海運管理令」「船員徴用令」によって民間の商船と船員のすべては陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかに戦時徴用され国の管理のもとにおかれた。殆どの民間の商船や漁船は、丸腰（非武装）で満足な護衛もつかないまま海上輸送や監視業務等に従事し、敵機の攻撃や敵潜水艦の魚雷攻撃の絶好の標的となり、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

大阪商船の嘱託画家、大久保一郎

画伯は、戦況の劣勢で社船が次々に撃沈されていった昭和17年（1942）、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況の中、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画として密かに描き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で32カ所・51回目、静岡県では、4年ぶり4回目の開催となった。

400人が来場

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページでの周知と海事関係団体の広報紙、業界紙などに開催案内を掲載していただくとともに、各行政機関、海事関係団体、マスメディア、近隣の美術・博物館や公民館、図書館などにポスターの掲示、リーフレットの配布をお願いするなど、周知・広報活動を幅広く行った。連日の猛暑にもかかわらず、ご遺族の方々をはじめ近隣の一般市民や遠方からも、400人が来場した。

大久保一郎画伯（1889-1976）



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31年（1956） 67歳

- 明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
- 大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報紙、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち141人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感動・感想が寄せられた。その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。

10代の驚き

■男性（静岡市） ポスターを見て
（清水海上技術短期大学校）

私は将来日本の生活を支える船員を目指す学生です。

今から80年前の大東亜戦争中に民間商船が戦争に使われていたことを



清水海上技術短期大学の生徒の皆さん

知りませんでした。軍艦や空母の悲劇や戦歴は学校の授業や本で知ることができますが、戦時徴用船について知る機会や本はなかなかありません。

今日、学んだ戦時中の商船の悲劇、功績を忘れずに、海に散っていった船員の方々のように、日本の平和な日常生活を支えていける船員になれるよう頑張っていきます。

■男性（静岡市） ポスターを見て
（清水海上技術短期大学校）

戦時徴用船のことは名前ぐらいしか知らなかったもので、どんなに悲惨で大変な事なのかをよく知ることができた。

絵のリアルさや迫力もあいまって、その現場の状況がすごく伝わってきて言葉もでなかった。特に民間の方が多く亡くなっていることに關して、戦争がいかに無益で非人道的であるかも身に染みて感じた。

今日来られたことは凄くよかったと思う。また絵を見に足を運びたいと思った。

■男性（静岡市） ポスターを見て
（清水海上技術短期大学校）

以前、短編小説で戦時中の船員さ

んのお話の小説を読んだこともあり来ました。

私も現在、船員になるための勉学に励んでおりますが、実際に戦争が起きると私もこのようになってしまふのかと思いました。こういう話を聞いて後世にこの事実があったことを伝えて行くことが大事だと思いました。

本日は貴重な体験ができました。

■男性（静岡市） ポスターを見て
（清水海上技術短期大学校）

私は、将来船乗りになる学校に通っています。昔の船員さんがどうやって職務を全うして殉職したのか学ばせてもらいました。

20代の学び

■男性（静岡市）その他（SNSで）

現在私は、東海大学の海洋学部に通い、船の設計士になるために、日々勉学に邁進しています。

もともとは、小学生の頃に教室にあった船の歴史に興味を持って、船を好きになっていきました。その頃の私は、軍艦などの見るからに格好の良い船に夢中になっていました。（今もですが）

しかし、年を重ね、様々な媒体を通じて歴史を深く見ていく、あるいは見えていく、一見地味に見える船たちの格好の良さに気付く、大い



東海大学海洋学部の白坂直也さん

に魅了されていきました。

その中で、徴用された船舶の最期が語られたものは極めて少なく、また、語られる場所も極めて少ないものでした。現在のテレビやSNSも例外ではありませんでした。しかしかつての戦争で主な戦場や原爆の犠牲者を悼み、反省を行うことは確かに重要です。

しかし、その影で亡くなっていた船舶の乗組員を悼まないことは間違いであり、今なお見やすい犠牲ばかり見るだけではなく、確かに生き、日の当たらぬ場所でも亡くなっていた人々も見なければなりません。そしてそのような人々を悼み、いかに同じような誤りを行わないか全国規模で考えることによって始めて、亡き人々の無念は報われ、力強く前に進めるであろうと考えました。



長主正也さん（東京都葛飾区）が作成した
「ぶら志る丸」の模型（縮尺1/2000）

■男性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

かつて、多くの船員の方々が国家のために船に乗り、亡くなられていたということを知りとても衝撃を受けた。

今日、日本は海洋国家として多くの船を再び保有しているが、またこのような悲劇が起きることがないように切に願うばかりである。

■男性（静岡県浜松市）

その他（ツイッター）

貴会のこととは、以前より存じておりましたが、中々訪れる機会がなく、今回は清水ということで重い腰をようやく上げることができました。私も甲板員として、わずか1千トンばかりの船で働いていましたが、

その何倍も大きな商船を操っていた優秀な船員が、無謀な作戦で失われていった事に腹が立ちます。亡くなった先輩方に起きた事実を今後の日本に残していけるようにしたいと思います。

■女性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

豊富な展示物と説明のポップがあり、大変わかりやすかった。多言語対応が可能となっており、お越しいただいた皆さんが理解できるような内容になっていったように思います。静かな空間に映像の音が響いて、深く考えることができました。

30代の印象

■男性（旅行中）

ポスターを見て（マリナートで）

暗にリアルに描かれています。とても悲惨であり、溺死することが解っている時間、何を考えていたのでしょうか。二度と戦争はあつてはならないと思います。

■男性（静岡県三島市）

その他（ツイッター）

昔に戦時徴用船の話聞き、とても興味がありましたがなかなか機会がなく、今回たまたまSNSで作品展をやっていると知り、来ることができました。

貴重な絵を見ることができ感動しました。

SNSやCMでもっと発信していただき、多くの人に見てもらいたいです。

■男性（旅行中）

ポスターを見て（マリナートで）

戦時徴用船の犠牲があつたのを知ってはいましたが、絵として見ると感じ方が変わりました。

■女性（静岡市）

マリナートに来て

戦争のことを子供にどう伝えて行くか悩んでいたもので、絵から何か感じとってくれたらなと思います。ありがとうございます。

■男性（静岡市）

ポスターを見て（マリナートで）

話を聞くことがあつても絵や写真で見える機会は少なく、今後の仕事に活かしたいです。また、展示方法も動線を考えた非常に良いレイアウトだと感じました。

資料を拝見し勉強します。

■男性（東京都大田区）

その他（ツイッター）

今、あらたな「戦前」として「はくおう」「ナッチャン」等の徴用船が再び出現するに至って、本展示は実に気が重い。身に染みて過ちの繰り返さぬことを、ただ祈るばかり。

■男性（静岡市）

ポスターを見て（マリナートで）

当時の戦争のリアルティあふれる絵を見て、戦争の悲惨さが伝わってきました。1枚1枚が細かく描かれていて、とても貴重なものだと思います。戦争に使用された船がこんなに沢山あることも知ることができて良かったです。

実際の船を再現した模型も、とても精密に出来ていて、間近で見られて良かったです。

■男性（横浜市）

顕彰会の潮騒（勤務先の供覧）

近隣に戦没船員の碑があるので、今回その実情を絵画という形で目の当たりにすることができ、戦争の惨状を感じることができた。



40代の感想



■女性（静岡市）

新聞を見て（朝日新聞案内欄）

「暁の宇品」（堀川恵子）を読んだので、「戦時徴用船」という単語が目に残って来場しました。本のあとがきでも触れられていたが、日本が島国である限り、船とそれに関わる人たちの力が不可欠だと思う。海に眠っている方々に敬意を。

■女性（静岡県）

顕彰会からの案内ハガキで

曾祖父のことでお世話になりました。その後、祖父の娘である母やおばが祖父から聞いた話を又聞きし、曾祖父は自らの船を差し出して徴用に応じたということです。

「第75興安丸」この名は徴用に際して改名されたのでしょうか。

今秋、曾祖父が到着するはずだった基隆に行ってきます。わずか100トンの船で任務についた、曾祖父の姿をイメージすることが、この作品展で叶いました。

ありがとうございます。
1千トンとか大きな船舶の絵…小さな徴用船の描写は無いのでしょうか。

■男性（東京都西東京市）

マリナートに来て（偶然清水に来た）

NHKのドキュメンタリーで見た油彩を見られるとは思いませんでした。鬼気迫る絵画でした。

■女性（静岡市）

ポスターを見て（マリナートで）

戦時のリアルな攻撃を受けた絵画に驚きました。今の時代では想像もできないような光景に、戦時の苦しみや辛さを知ることができました。今ある平和は、当時の人々の上で過せることに事に感謝しながら生きたいです。

■男性（東京都）

ポスターを見て（平和記念展示資料館）

戦時徴用船については、日本郵船博物館を見て知っていたが、このような記録画があるとは知らなかった。戦後80年という年に、このような

展示を見ることができて大変良かった。

80点描かれたのに37点と写真12点しか残されていないのが大変残念。

子供たちにこういった絵を見てもらって、戦争の惨禍、平和の尊さについて学んでもらいたいと思う。

チラシを見て大変興味があったが、会場が清水と知ってあきらめていたが、たまたま藤枝市に用事ができたため、立ち寄ることができて良かった。

■男性（静岡市）

ポスターを見て（マリナートで）

シーレーンの確保ができてないことは知っていたが、これ程までに民間人が犠牲になっていたことは知らなかった。よく、このような資料を残してくださった。

日本において外交力は平和の要であることを痛感した。

■女性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

戦時徴用船について、あまり詳しく知らなかったもので、危ないのを分かったうえで、海に出なければいけなかった方々の事を考えると辛い気持ちになります。

資源の少ない国だから輸送してくださる船はとても大変で大切な仕事だったのだと分かりました。

絵画で状況を観てくださり、よ

り理解が深くなった気がしました。

■男性（静岡市）

顕彰会のホームページを見て

6万人もの船員が犠牲になったこと、また、その3割が20歳未満の若者であったことを知り、驚いている。このような悲劇は二度と繰り返してはならないし、当時、日本はどうしてこのような政策や作戦を行ったのか、詳しく知りたいと思った。

■女性（静岡市）

ポスターを見て（マリナートで）

映像や写真でも見た事が無いダイナミックな構図で描かれており、当時の大変な状況が伝わってきた。残された作品を見ることが出来、貴重な体験でした。



50代の想い

■女性（静岡市）

海洋（7月号）を見て

家族（学生）が海洋会の会員になり、会報「海洋」を見てマリナートで展示されていることを知りました。多くの貴重な船、船員さんが被害にあったこと。人命救助に尽くす姿を知ることができました。絵画が丁寧に保存されて良かったと思います。

■男性（静岡市）

職場に案内があった

遠洋海域でこのような事があったことを伝えることはとても重要。米軍人の救助等、シーマンシップを感じるとともに、その胸中は複雑であったと思う。



■女性（静岡市）マリナートに来て

これだけの記録を絵画として残していた故大久保一郎氏に感謝の気持ちで一杯になった。これらの作品は後世に氏が伝えた命がけの記録であると思う。

改めて戦争の悲惨さ、アメリカに対する悔しい思いを感じる。

■男性（静岡県）

ポスターを見て（しろうけい館）

この絵画の存在を知らなかったが、戦時中に生還した乗組員の証言を聞いて描かれたという事実に驚いた。船舶の乗組員の約半数が亡くなったことが軍人の死亡率より高かったというのも意外でした。

今年は住んでいる市に近い清水で開催され、今日観ることができ、大変良い機会でした。

■男性（静岡市）

マリナートのホームページで

この展示で戦時徴用船というものを知りました。歴史の授業やテレビや映画で知っている戦争の情報というのは本当に戦争の一角にすぎないのだなと思っています。

沈没する船の絵を描くことが国に知られていたら、この絵画はすべて処分されてしまっていたかもしれない。危険な仕事をしてくれたおかげで、後世にこのような事実があったのだと伝えて行けます。

これからも絵画を大切に保存し未来へ繋いでほしいと思います。

■女性（静岡市）

チラシを見て（図書館）

思ったより、とてもボリュームのある展示で見たえがありました。

このような展示や取り組みがあることも初めて知りましたが、知人にも知らせようと思います。

丁寧なレイアウト、資料、心づかいが感じられました。

60代の憤り

■女性（静岡市）

ポスターを見て（マリナート）

戦後80年にして初めて知った。商船の終焉の真実に胸に迫るものがあり涙ぐみました。

改めて日本人が海洋民族であり、シーレーンは生命線であり、これを絶たれては存続は出来ない…と知りました。

今現在、日本崩壊の最終段階に来ている危機感が募ります。あの大東亜戦争はいかにして避けられたであろうかと、幕末〜明治維新からの流れから遡って考えてみても、大きなうねりの渦は避けようもなく飲み込まれてくのは決定事項だったように思えます。

しかし、日本国が日本人の国であり続ける為にも、今、一人一人が目



覚め、正しい判断のもと選択してゆかねばなりません。

■男性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

資源の無い日本を守るために、軍人だけでなくこれ程多くの船員の方々が犠牲になっていたことに胸が痛みました。

また、空爆よりも雷撃での被害が多かったことも驚きでありました。現在でも世界の中に紛争地域が存在することが残念であります。

今後の日本として、いかに資源、エネルギーの安定的な確保が重要か、改めて考えさせられた気がします。

この様な絵画展を開いて頂きありがとうございました。



戦没船員ご遺族の高野正則さん

■男性（東京都練馬区） その他

今年は戦後80年の節目となり各地で様々な視点から、戦争の教訓や後世へメッセージを伝える企画が催されている。その中で80年経ってもまだ新しい事実や知られていない犠牲が語られることに戦争の深さを感じる。戦後長く加害者も被害者もトラウマから多くを語られなかった方も、直接知る人がいなくなる中で、やはり当事者がきちんと事実を残しておくべきと思われたと想像している。

この絵画展も51回となるが、日本のシーレーンを支え、命を亡くした無念の船員の皆さんを顕彰し今後に繋げていく活動になればと思う。

最近では平時にあつて有事に備える経済安全保障が大きくフォーカスされ、海運造船がその一つとして取

り上げられている。海洋国家日本として当然のことであり、もう一度国づくりのイロハとして船とそれを動かす船員について考える機会となれば幸いである。

■女性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

戦争を知らない世代には、最近になってやっと戦時中の話をしだした父の苦勞を感じられるようになりました。祖父がI日Iで造船に携わっていた事も知りました。

戦争がいかに酷く無意味だったかを思うと共に日本の海上輸送やその技術のすごさも今回の展示で知ることができたと思います。

94歳を迎えた父が、今まで戦争について一言も語らなかったのに、やっと時を経て語れるようになったのだと思うと胸が詰まります。父も油絵を書くので、父にも見てもらいたいなと思いました。（関西に住んでおります。）

■女性（静岡市）

ポスター（静岡平和資料センター）

貴重な絵を拝見して新たに平和の大切さを思い知らされました。

病院船ですら沈没させられてしまい、正義はないものかと憤りを感じますが、今のイスラエルを見ても、勝つか負けるかとなれば、是非もない。知り合いの親類が、アンポンあた

りで沈没した船に乗っていたのと。詳しいことは、その知り合いもよくわからないとのことですが、もしかししたら徴用船にのっていたかも知れません。

一人でも多くの方々、特に若者に見てもらうために、新聞社、テレビ局等にもっとアピールしてもよいのではと思いました。

■男性（静岡市）

ポスターを見て（マリナート）

戦後80年になり、戦争が遠いものになってしまいましたが、今回の絵画展で80年前に本当にあったことなのだ改めて感じました。

ご家族のことにまで思いがいたり、心が重くなりました。二度と戦争をしてはいけない、悲しむ家族を作ってはいけないうと、ひとつひとつの臨場感のある絵画をみて思いました。

■女性（静岡市）

友人、知人、家族から聞いて

戦後80年の節目の年で、テレビ、映画等で「戦争」を改めて知った感じです。

先日、映画「雪風」見た後の、この記録画展はいろいろと思うことが重なりました。ビデオも見ました。知らない事ばかりで反省。戦争は二度としてはだめです。

若い人達にも見て欲しいです。

■女性（東京都目黒区）

ポスター（浜松復興記念館）

戦争のことを「戦時徴用船」という側面からみたのは始めてでした。なんと無知だったかと反省しています。

いただいた資料、詳しく拝見したいと思います。今日拝見したことは、家族にも伝えようと思います。ありがとうございます。

■男性（静岡県賀茂郡）

ポスターを見て（静岡県内航組合）

父の兄弟が龍田丸にて戦死した為、6万余人もの船員が先の大戦で亡くなった事実により、二度とこの様な事にならないよう、これからの人にも観て感じてほしい。



戦没船員ご遺族の紅林道也さんご夫婦

70代の怒り

■女性（静岡市） ポスターを見て

（地域の学習センター）

私の父は戦争でインドネシアに行きました。幼少期に少しは話を聞いていますが、本展示を見て、父もこの中の、船のどれかに乗っていたのかも知れないなあと思いました。

物資の少ない日本、開戦する前から調査資料や予測的研究で早々に負けると一部知識のある人々の中ではわかっていったと最近見たテレビ番組等で知り、本展示の中のたぐさんの船舶と乗っていた人々のむなしい死を改めて感じました。戦争に向かって走り出したら止められない、という怖さを感じるこの頃です。



■女性（静岡市）

顕彰会からの案内ハガキ

生前父（元船員）は、あまり戦争当時の話はしませんでした。亡くなった多くの徴用された船員のことを気にかけていました。

自分が退職するまで元気で船員として生きてこられたのは、多くの亡くなった人への思いを、いつも持っていたのだと思います。

■男性（静岡市）

新聞を見て（朝日新聞）

私のおじは、15歳にて民間船に乗り組み海の中に沈んだ。

20歳以下の戦没者が全体の3割も占めていることを知り、当時の状況がよくわかる。

祖父は、死ぬまで息子を船員にしたことを悔やんでいました。

今日の展示を見て、当時の苦しみがよくわかりました。

ありがとうございます。

■男性（浜松市） ポスターを見て

（焼津市歴史民俗資料館）

戦時徴用船の被害が多く、船員の死者数が膨大であることを知りました。このようなことを良く知りませんでした。

今日のDVD映像を見てあらためて考えさせられました。たぐさんの犠牲があつて今があるのだなと思います。

亡くなられた人々、ただただご冥福を祈るのみです。合掌

■男性（静岡市）

顕彰会からの案内ハガキ

戦時徴用船の最期の状況がリアルに描かれていて印象に残りました。

無防備な徴用船が魚雷などの武器、航空機などの攻撃により沈んでいく姿は、凄まじいものがありました。船に乗っていた多くの人が亡くなったことも、痛ましい出来事として印象に残りました。

私の母の兄も、戦時徴用船に乗り亡くなりました。戦争は本当に起こしてはいけないうと改めて思いました。徴用船に乗りお亡くなりになった方々に対して心からお悔やみ申し上げます。

80代の嘆き

■男性（静岡市） マリナートに来て

昭和18年生まれのは、小さい時から戦争のことは聞かされ、知らされておりましたが、海洋戦のことはあまり知りませんでした。今日更に詳しく知りましたので心中感じるものがありました。伯父の友だった人が、戦艦大和か、陸奥の乗組員だった人と40年くらい前にちょっと話を聞いたことがあります。戦後80年過ぎて忘れられていく中で、新たに忘れてはいけないという思いを感じ

ました。戦没者、遺族の人の思いを感じてやるのが、自分の今の幸せを感謝出来るものと思っています。

私は水産高校卒で海には多少関心は何人かあります。マクロ船に乗った友人も、戦死された方々のご冥福を祈り自分の人生の支えとしたいと思っています。

戦争のことは絶対忘れてはいけないうと後世の人達に強く伝えていけないうと強く思っています。

今日は体調がちょっと不良の中、来て良かったと思っています。

■男性（静岡市）

新聞を見て（朝日新聞）

・映画「雪風」を観てきたので、描かれている情景が良くわかった。

・特に目を落としたような場面を丁寧に描いているのにびっくり。戦争の悲惨さが心に沁みる。写真より一筆ごとに心に共感がもてた。

・数年前、客船で、オーストラリアクルーズに乗船した時、ガタルカナル島の近くを航行してもらった様、キャプテンは島が見える所まで船を近づけて、汽笛の長音を鳴らしてくれた。感動した。

また、硫黄島でもお願いしたら心よく！

今、この絵を見て当時のクルーズを思い出した。

海の日清掃・献花式

横須賀海洋少年団
観音崎公園 戦没船員の碑



献花式、黙とうを捧げる

令和7年7月6日(日)、横須賀海洋少年団の「海の日」行事として、恒例の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。連日の酷暑にもかかわらず、「戦没船員の碑」に集まったのは、横須賀海洋少年団、大和海洋少年団、ガールスカウト神奈川県第62団指導者、保護者、顕彰会の事務局が加わって、総勢30人で汗だくになりながら、「戦没船員の碑」周辺の草刈りなどの、清掃を行った。

■島田泰聖くん (小学五年生)

暑かった、虫がいた、だけど慰霊していると思うとそうじしていて気持ち良かった。

■山崎和花さん (小学二年生)

ガールスカウトに年長からはいった。

暑かったけど、泰聖ちゃんと玉虫の羽のかげらを集めるのが楽しかったし、碑がきれいになってよかったです。

■まつざき はなこさん (小学一年生)

はじめてそうじにきました。あつかった、たいへんだった。きれいになってよかった。

■まつざき はなこさんの父

初めて参加しました。暑い中、清掃活動に参加することで、改めて、戦争について見つめる機会となりました。

娘にも、少しでも戦争について考えてほしいと思います。

■大塚 葵さん (中学一年生)

私たちのために戦っていただいてありがとうございます。私たちは幸せに暮らしています。

今日は心をこめておそうじをしました。また、来年もおそうじをします。



ご協力
ありがとうございました

横須賀海洋少年団の「海の日」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございました」と声高らかにお礼を述べていました。

ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水先人会連合会・日本水路協会・海技教育財団・全日本海員組合・全日本海員福祉センター(順不同)

投稿 終戦80年 最後の洋上慰霊

山岸由紀子 石川県金沢市

日本遺族会主催による、「35周年記念洋上慰霊」は、客船「につぼん丸」が戦没者遺児218人に乗せ、令和7年6月1日神戸港を出港し台湾海峡、フィリピン沖などを巡り、遺族らが洋上で鎮魂の祈りを捧げ、6月11日神戸港に帰港した。

今回で最後となる「洋上慰霊」に参加した、戦没船員ご遺族の山岸由紀子さんから追悼文が寄せられた。

山岸さんの叔父「山岸尚三」さんは、大阪商船「すらばや丸」乗船中に被雷、戦死されている。

日本殉職船員顕彰会が、平成17年に開催した「終戦60周年記念戦没殉職船員遺族の集い」で、天皇皇后両陛下（現上皇皇后陛下）から労いのお言葉をかけられた感想を「潮騷21号（平成18年1月）」に投稿している。

日本殉職船員顕彰会 様

先日は戦没者遺児による慰霊友好親善事業による洋上慰霊への参加に際し、尚三叔父の戦死資料と会報「潮騷」を送って頂きありがとうございました。

お陰様で供養できたこと、感謝しております。

東シナ海洋上慰霊で金沢のお菓子とお酒、菊の花を手向けた時、この広い海原に沢山の方々が眠っていると思うと何故か胸に迫る思いで「尚三叔父さんやっと来ました姪の由紀子です。最後まで頑張った叔父さんご苦労様でした。家族皆で誇りに語り継いでいきますからご安心ください」と、語りかけました。

帰宅し、仏壇に報告した後、体が軽くなった気がしました。

追悼文を同封しましたので目を通して頂ければ幸いです。

追悼文

尚三叔父さんへ

私は叔父さんの姪の由紀子です。

叔父さんのことは叔母さん達から『尚三兄は、金沢一中から大阪商船に入り、外国に行く度にお土産と外国の話聞くのが楽しみでしたが、戦争が激しくなり、軍用船で品物を運ぶ途中戦禍に会い、昭和18年1月20日にトラック島附近で亡くなりました。救出された方の話では、周りの方々が逃げる中、尚三兄は「荷物を守る」と荷物のそばから離れずに居たそうです。尚三兄は真面目で責任感強い人で生きていけば、世界中のことを聞けたのに』と聞いています。

横須賀観音崎で毎年開催される日本殉職船員顕彰会の追悼式に、叔母達が参加してきました。私も一度参

加したいと思い、平成17年の終戦60周年記念戦没殉職船員遺族の集いに参加することができました。その時、天皇皇后両陛下にお目にかかることができ、私の父（数美）をはじめ伯父（孝以）と叔父（尚三）の三人が戦死したことを陛下にお話したところ、陛下から暖かい眼差しで優しいお言葉をかけていただき、感謝感激したことを昨日のように思い出されます。陛下と身近にお話出来たのは、尚三叔父さんのお導きがあったからと感謝しています。

陛下から最後に『お大事に』とお言葉を頂いたこと、『尚三叔父様、最後まで頑張ってご苦労様でした』ということ、父が昭和20年11月30日に戦死した後、祖母の計らいで家族会議を行い、私が6歳で家督相続人となり、戦後、気丈な母と祖母と共に家業の農業を手助けし、辛抱我慢しながら家を守って来て、お陰様で三人の子と六人の孫達と穏やかな日々を過ごしており『安心して下さい』ということをお今日の慰霊祭で伝えたいと思います。

また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業が平成3年から実施され、父と伯父が亡くなった中国へ平成4年3月に慰霊参加しました。

そして今日、最後の洋上慰霊に参加できて幸せです。戦死した三人が見守ってくださったお陰だと感謝しております

終戦記念日献花式

令和7年の終戦記念日献花式は、8月15日（金）、連日の猛暑のなか、観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）で、池田潤一郎会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者40人が参列し挙行了した。

献花式は例年どおり日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行に合わせ執り行われた。

東京湾口を望む慰霊碑に供花し、黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。



【第十二回特別弔慰金】 戦没者等のご遺族の皆様へ 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金のご案内

制度の概要…今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者等の尊い犠牲に思いをいたし、国として改めて弔慰の意を表するため、戦没者等のご遺族に特別弔慰金を支給します。

国債の償還について…国債の償還金は、令和 8 年から毎年 1 回償還日（4 月 15 日）以降に、年 5 万 5 千円ずつ支払いを受けることができます。償還金の支払いを受ける場所は、請求手続きの際に、ご希望の郵便局等を指定していただきます。

支給対象者

令和 7 年 4 月 1 日（基準日）時点で、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方（戦没者の妻や父母）がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族お一人に支給します。

戦没者等の死亡当時のご遺族で、

- 1 令和 7 年 4 月 1 日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
- 2 戦没者等の子
- 3 戦没者等の ①父母 ②孫 ③祖父母
④兄弟姉妹
※戦没者等の死亡当時、生計関係を有している等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。
- 4 上記 1～3 以外の戦没者等の三親等内の親族（甥、姪等）
※戦没者等の死亡時まで引き続き 1 年以上の生計関係を有していた方に限ります。

支給内容

額面 27 万 5 千円、5 年償還の記名国債

請求期間

令和 7 年 4 月 1 日から

令和 10 年 3 月 31 日まで

この期間を過ぎると請求できなくなりますので、ご注意ください。

請求窓口

お住いの市区町村の援護担当課

留意事項

特別弔慰金は、ご遺族を代表するお一人が受け取るものです。ご遺族間の調整は、記名国債を受け取った方が責任をもって行うこととなります。

詳しくは、お住いの都道府県・市区町村の援護担当課にお問合せください。

※厚生労働省発行 第十二回特別弔慰金のご案内（リーフレット）より転載

殉職船員

遺族援護について

日本殉職船員顕彰会では外航船・内航船・旅客船・港湾船等の船員として就労中、海難など職務上の事故により死亡した船員のお子さんに対し、義務教育、高等学校を修了するまで援護金として一人月額 8 千円を支給しています。

また、小学校、中学校、高等学校に入学した場合に、それぞれ 1 回に限り記念品を贈呈しています。

詳細については、当会事務局までお問い合わせください。
(電話 03-3234-0662)

ご遺族からのお便り

■織田幸恵さん（広島県）

いつもお世話になっております。先日、18 歳の誕生日を迎えました。あの日から 10 年経つんだなあと、パパとの記憶より長くなったんだなあと、思いながらお祝いしました。今、こうして明るく元気に生きていくことに感謝です。ありがとうございます。

■佐藤亜希さん（青森県）

中学校生活も残り一年と六ヶ月。進みたい高校も決まり、毎日頑張っています。いつもありがとうございます。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和7年7月1日以降、令和7年10月31日までの間に、次の方々からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

当会は基本財産の利息収入、寄付金、海運会社・水産会社および関係団体等の賛助会費・補助金ならびにご遺族や関係者の賛助会費・協賛会費により運営されております。

会費は3種類あり、賛助会費法人 1口 10万円・賛助会費個人 1口 1万円・協賛会費 1口 3千円で、それぞれ年1口からお申込みいただけます。

平成23年4月1日に「公益財団法人」に認定され特定公益財団法人に該当し、平成23年10月27日に「税額控除対象法人」の証明を受けました。これにより賛助会費・協賛会費を含む当会に対する寄付は税制上の優遇措置が認められることになり、確定申告を行うことにより、「所得控除」もしくは「税額控除」が受けられます。

なお、当会は消費税の免税事業者であるため、インボイス（適格請求書）発行事業者ではありません。

追悼式献花料

○田口ウメ子様（神奈川県大和市）

終戦記念日供花料

○多胡明美様（東京都小金井市）

一般寄付金

（順不同）

○大須賀啓子様（神奈川県横浜浜市）
○トーマス・ミラー株式会社様

○竹中 亮様（東京都国分寺市）

遺族援護寄付金

○薄井智子様（東京都世田谷区）

知られざる民間船舶の悲劇

戦時徴用船遭難の記録画展

寄付金

（順不同）

○堀江耕太朗様（神奈川県横浜浜市）
○服部雄介様（愛知県豊橋市）
○田宗子様（大阪府大阪市）
○西村正博様（東京都大田区）
○森山優様（静岡県静岡市）
○野上武志様（東京都練馬区）
○佐藤呂信様（神奈川県横浜浜市）
○宮本敏之様（神奈川県伊勢原市）
○武士郁生様（静岡県三島市）
○落合富美子様（静岡県富士宮市）
○小坂美智子様（大阪府大阪市）

知られざる民間船舶の悲劇

大久保一郎画伯遺作

第52回

戦時徴用船遭難の記録画展

東京都江戸川区で開催

タワーホール船堀 展示ホール 1

8/21～8/31

入場無料



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶらざる丸」

主催

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

会場

タワーホール船堀 展示ホール 1（1階）
東京都江戸川区船堀4丁目1番1号
・アクセス【電車利用】
都営新宿線「船堀駅」下車 徒歩約1分

会期

令和8年8月21日（金）から8月31日（月）まで
・開館時間は、10時00分から18時00分まで
・初日の8月21日（金）は、13時00分開場
・最終日の8月31日（月）は16時00分に閉場